

崇徳会研究・研修センター便り第5号「初めての研究」(2025/7/22)

田宮病院 看護部 3病棟 佐野綾音 田中貴寛

私たちは、2025年3月28日に田宮病院の院内発表大会にて、便秘症患者におけるビフィズス菌製剤とオリゴ糖の有効性について発表を行いました。初めての看護研究で分からないことが多く、一から学びながら研究を行いました。少しばかりではありますが、今回の研究過程を振り返り得た学びを共有させていただきたいと思います。

「研究を行うに至った経緯」

上長の推薦を受け研究を始めることとなり、テーマを検討する中で当病棟では便秘に悩む患者さんが多く、刺激性下剤を常用している現状に着目しました。刺激性下剤の長期使用は副作用のリスクがあることから、より安全な代替療法の必要性を感じました。そこでビフィズス菌製剤とオリゴ糖を同時に摂取することで、腸内環境が改善され便秘の軽減に繋がるのではと考え、本研究に取り組むことにしました。

「研究過程で得た学び」

最初に述べたように今回初めての看護研究であり、どのような過程を経て進めていくのかが分からず戸惑いも多くありました。その中で長岡崇徳大学の田邊要補教授（現職：研究研修センター）には沢山のご助力をいただきました。

今回の研究結果として、オリゴ糖とビフィズス菌製剤の摂取による明らかな有効性はみられませんでした。詳しい結果については令和6年度の「社会医療法人崇徳会 研究収録No. 35」に掲載されています。良ければご覧ください。結果として有効性が見られなかったことに対して最初は落胆しました。しかし田邊教授と研究を進めていくなかで、想像した結果が得られなかった原因について考察することで、新たな気づきを得ることが出来ました。このことから必ずしも、有効性を見いださなくてはいけないと気負う必要性はないことが分かりました。

次に倫理委員会について少し触れさせていただきたいと思います。今回患者さんを対象に研究を行ったため、倫理的に配慮されているかを倫理委員会にて審査して頂きました。錚々たるメンバーの中で緊張したのを今でも鮮明に覚えています。実際に参加しその緊迫感を体験することで、患者さんの権利擁護について深く検討することの必要性を再認識することができました。今回この研究に協力して頂いた患者さんにはとても感謝しています。

「最後に」

今年度から崇徳会研究・研修センターが設立されました。看護部でも田邊教授による看護研究の講義がラダーⅢの後期で始まった事で、今後より看護研究を行う職員に対して取り組みやすい環境になると考えています。最後になりますが、私たちの今回の学びがこれから看護研究を行う皆様の助けになれば幸いです。